

4:1 ペテロとヨハネが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちが二人のところにやって来た。

4:2 彼らは、二人が民を教え、イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣傳していることに苛立ち、

4:3 二人に手をかけて捕らえた。そして、翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。

4:4 しかし、話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどになった。

4:5 翌日、民の指導者たち、長老たち、律法学者たちは、エルサレムに集まった。

4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレクサンドロと、大祭司の一族もみな出席した。

4:7 彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか」と尋問した。

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

4:9 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。

4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てら

れた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

救いのみわがが進むと必ず敵対する人が現れます。自分にも変化が及ぶのを嫌がるからです。そこで私たちが本当に神様を信じて生きようとしているのか、それとも自分のために生きようとしているのかを試されることとなります。ペテロとヨハネは信仰を貫きました。

迫害があるのにさらに5千人が信じたということは重要なことを教えます。困難があると知っていても神を信じる人は多いのです。ペテロたちのように毅然として神に従いつつ、永遠の幸いに確信を持っていけばよいのです。本当の信仰を獲得できるでしょう。

ペテロたちは取り調べさえも伝道のチャンスと考えました。反対者が何が攻撃してきたら、それはチャンスなのです。もちろん攻撃し返す必要はありません。伝道のために愛を持って接することになるでしょう。結果的にはそれが平和な解決となるでしょう。それ以上に神の国が広がるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

